県立高校改革（Ⅰ期）指定事業　実施報告書　（平成 29 年度）

学 校 名	松陽　　高等学校（全・定・通）	校 長 名	深川　伸一
指定事業	授業力向上推進重点校		
研究主題	「松陽スタンダード」に基づき、生徒が主体的に学習に取り組む授業の実践及び検証を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力等の一層の向上を図る。		
３年間の目標	１　生徒が自ら「思考・判断・表現」できる能力を身に付けている。 生徒主体の授業の更なる充実、グループワークの質の更なる向上を図り、生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育成する。 ２　生徒が大学入学センター試験に替わる新テストに対応できる力を身に付けている。 基礎力をしっかり身に付ける「習得のための主体的な学習活動」、習得した基礎力を「活用するための主体的な追求活動」、真に考えるための「探求型の発展学習」について研究を重ね、新テストに対応できる力を育成する。 ３　授業力向上をふまえた本校のカリキュラムデザインを完成する。 生徒の探究活動等を組み込んだ学習活動を推進できる教育課程の作成に向けた協議、研究を実施し、３年間の取組の成果として完成させる。		
本年度の研究内容	**(1) 目標** 本校では３年間で生徒に身に付けてもらいたい学力水準を「松陽スタンダード」と位置付けており、平成 25 年度から３年間その内容の具体化、明確化を目指して研究を重ねてきた。これまでの取組を基に、生徒が主体的に学習に取り組む授業の実践及び検証を行うことを本研究の目標とする。特に本年度は、生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る授業の日常的な展開を実現し、本校の現状と課題をふまえた組織的な授業改善の推進と共通理解の形成を図る。また、本校の授業力向上に係わる取組について発信していく。 **(2) 実施内容（具体的に）** ○４月に、授業力向上推進に係るプロジェクトチームを発足し、研究計画を立案した。 ○５月 26 日に、学校支援クラウドサービス（Classi）についての生徒対象説明会を実施した。 ○８月 29 日（横浜南西地域）第１回研究協議会準備会・研究協議会を横浜平沼高校で実施した。 ○９月 26 日に、横浜国立大学の有元典文教授を招き「みんなで授業デザインを考えるプロジェクト」というテーマで「授業力向上推進校内研修会」を実施した。 ○９月 27 日の職員会議で、授業力向上推進に係る研究の全体像を確認した。また、平成 29 年度「第一回生徒による授業評価」の集計結果を確認し、その後全教科で分析を行った。 ○９月 27 日～10 月 31 日に複数回「教科主体のグループによる事前検討会」を設定し、平成 29 年度「第一回生徒による授業評価」の結果分析と研究授業に向けた授業づくりを行った。 ○10 月 25 日に、専門家を招いて、学校支援クラウドサービス（Classi）についての教		

員・生徒対象説明会を実施した。

○11 月 1 日～11 月 17 日に、授業見学期間を設定し、教職員が教科を越えて相互に授業を見学し合った。

○11 月 17 日に、「生徒が主体的に深く学ぶための『問いかけ』を組み込んだ授業の実践」というテーマで公開研究授業及び、生徒を含めた研究協議会を実施した。

○12 月 26 日に、（横浜南西地域）研究成果発表会・学習成果発表会を本校で開催した。

○１月 30 日の職員会議で、平成 29 年度「第二回生徒による授業評価」の集計結果を確認し、その後教科で分析を行った。

○２月６日に、平成 29 年度　国立教育政策研究所　教育課程研究指定校事業研究協議会に参加した。

○年間を通して、自らの授業を客観的に観察・評価することで、授業改善に繋げることを目的に「日常的な授業のビデオ撮影」を実施し、新採用研修等でも活用した。

(3) 検証方法と検証結果

①「生徒による授業評価」【評価３（ほぼ当てはまる）・評価４（当てはまる）の比率】

○「Ｄ：生徒主体の授業の工夫」

評価３・４と回答した生徒の比率が、第一回授業評価で保健 79%、情報 76%であったが、第二回授業評価では保健 83%、情報 82%に上昇し、すべての教科が 8 割以上となった。

○「Ｇ：学習への取組」

評価３・４と回答した生徒の比率が、第一回授業評価に比べて第二回授業評価では７教科について上昇した。また８教科が９割台の高い評価である。

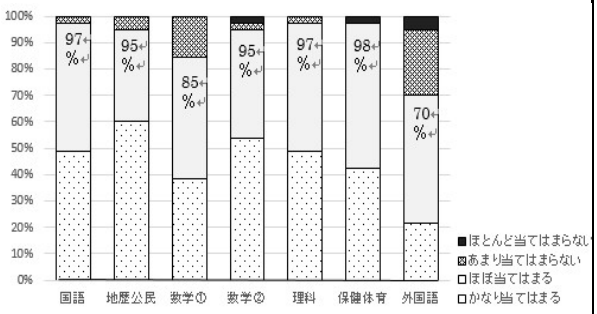
○「H：態度・姿勢」

評価３・４と回答した生徒の比率が、第一回授業評価で家庭 88%であったが、第二回授業評価では 95%に上昇し、すべての教科が９割以上となった。

②研究授業用「生徒による授業評価」

「今日の授業の『問いかけ』により、自分の考えを深めることができた」という設問に対し、全体平均で 90%以上の生徒たちが自分の考えを深めることができたと実感した。(右図参照)

研究授業用「生徒による授業評価」



③学習成果発表会・参加者アンケート（生徒）

「学習成果発表会はいかがでしたか。」という設問に対し、「大変よかった」、「よかった」と回答した生徒の比率が 96%であった。

「学習成果発表会は今後の学習に役立つと思いましたか。」という設問に対し、「大変よかった」、「よかった」と回答した生徒の比率が 96%であった。

④学習成果発表会・研究成果発表会参加者アンケート（教員）

「学習成果発表会の内容は今後の指導の参考になりましたか。」という設問に対し、「参

	考になった」「おおむね参考になった」と回答した教員の比率が 86％であった。 「研究成果発表会の内容は今後の指導の参考になりましたか。」という設問に対し、「参考になった」「おおむね参考になった」と回答した教員の比率が 96％であった。
研究のまとめ	**(1) 成果** ○「授業力向上推進校内研修会」を実施したことにより、授業デザインという観点から、授業に「問いかけ」を組み込むねらい、またそのための授業・単元づくりについて、職員の共通理解が深まった。 ○「生徒による授業評価」において、「生徒主体の授業の工夫」「学習への取組」「態度・姿勢」が高まった。 ○「生徒が主体的に深く学ぶための『問いかけ』を組み込んだ授業の実践」をテーマに実践した研究授業において、全体平均で 90％以上の生徒たちが「自分の考えを深めることができた」と実感した。 ○（横浜南西地域）学習成果発表会の実施により、地域の生徒同士の交流が図られ、発表に対する意識が高まった。 ○（横浜南西地域）研究成果発表会の実施により、各学校の取組の成果と課題が発信され、お互いに共有することができた。
	(2) 課題（次年度に向けての方向性を含む） ○「問いかけ」という言葉の定義が多義的だったため、各教科での取組にばらつきがでてしまった。今後は授業デザインの全体像を捉え直した上で、知識と実践が往還する「問いかけ」の目的・位置付けを明確にする。 ○すべての教科において、生徒が「問いかけ」によって主体的に深く学ぶことをできたとは言い難い。今後は、生徒の主体的で深い学びを評価する観点・方法について、一層の研究・開発を進める。 ○効果的な学習成果発表会・研究成果発表会のあり方について検討を重ねる。
その他特記事項	特になし。